令和４年４月 28 日

令和４年度　　第２号

学　校　だ　よ　り　　５月号

自分大好き　みんな大好き　ひとみかがやく西が岡の子

横浜市立西が岡小学校　泉区西が岡３－１２－１１　　℡８１４－３６０３
http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nishigaoka/

少年期に伸ばしたい力

学校長　佐藤　裕二

毎朝、正門ではあいさつ運動に立つ６年生の声と鮮やかな芝桜が、登校してくる子どもたちを明るく迎えてくれています。早いもので、令和４年度がスタートしてもうすぐ１カ月。不安そうに入学式に参加した１年生たちも、４月 18 日に全校で実施した「１年生を迎える会」では、上級生と一緒に笑顔で学校の○×クイズを楽しむ姿が見られました。保護者の皆様におかれましては、新１年生に限らず、新年度のスタートにあたり、環境が変化する中で、様々な心配をされていた方も多いのではないでしょうか。学年が上がるにしたがって子どもたちだけの世界も広がり、少しずつ家庭で学校のことを事細かく報告をしてくれない年頃にもなってきます。

さて、「子育て四訓」というものを聞いたことがありますか。これは、山口県の教育者、緒方甫氏の言葉だそうです。乳児の時はたくさんのスキンシップをとり、全身で愛情を受ける時期です。幼児期になるとなんでも自分でやりたがる分、しっかりと安全を確保してあげなければなりません。やがて少年期になると子どもの行動範囲も広がります。いつまでも大人が手をかけていては、必要な自立心が育ちにくくなってしまいます。子どもができることは子どもに任せ、適度な距離を保って見守っていくことが大切だという意味だと思います。親としては寂しくもあり心配でもありますが、子どもの健やかな成長のためには大切なことなのでしょう。そして青年期には、もう子どもの世界が親には見えなくなってきます。それでも、最後は自分の味方になってくれるという安心感が心の支えになっていくのだと解釈できます。

「子育て四訓」
１．乳児はしっかり肌を離すな
２．幼児は肌を離せ、手を離すな
３．少年は手を離せ、目を離すな
４．青年は目を離せ、心を離すな

小学生はまさに少年期。毎日生活をしていると、子どもの世界でうまくいかずに悩むこともあるでしょう。私たち学校職員も、子どもが自らの力で問題を解決していく姿を見守り、励まし、支援し、認めていきたいと考えています。そして、しっかりと自立心を育てて健全な青年期へつなげていきたいものです。